INTERVIEW

オレゴン健康科学大学家庭医療科
サウスウォーターフロントクリニック所長
山下大輔先生

【プロフィール】 山下大輔先生　2000年信州大学卒業. 米国横須賀海軍病院でインターン, 武蔵野赤十字病院で初期臨床研修を経て, 2003年より聖マリアンナ医科大学総合診療内科勤務. 生協浮間診療所にて勤務の後, 2006年オレゴン健康科学大学家庭医療研修医として渡米. 2009年からリーダーシップフェローとなり, 2012年サウスウォーターフロントクリニック所長に着任, 現在に至る.

米国の家庭医として, 日本の家庭医療のこれからを考える.

聞き手：山田隆司　公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所所長

迷いながらも医師の道へ

山田隆司(聞き手)　今日は「JADECOM総合診療医フォーラム」のためにオレゴン健康科学大学(OHSU)から一時帰国された山下大輔先生のお話を伺います. 今の先生のお仕事や, 米国の家庭医療などについてお話をお聞きしたいと思っています.

まずは先生の経歴から聞かせていただけますか.

山下大輔　私は信州大学医学部出身ですが，大学へ入る前は海外へ行きたいと思っていたので「外交官になりたい」と思ったのですね．それを父親に話したら「そんな仕事は駄目だ」と怒られ，「医者になれば海外へ行ける」とハッパをかけられて「そんなものかな」と思って……．うちの父親は海外畑が長くて，私も４歳まではサイパンで育ったのですが，そこで腸重積になったり，妹が白血病だったので（妹は今も元気にしています）海外で医者との接点がありました．小児の，特に小児血液の医師というのは長く寄り添うので，自分の中で医者というのはそういうイメージがありました．

ところが大学に入ったら「あれっ？」という感じで，自分の思い描いていたような，ずっと寄り添うような医師があまりいなかったのですね．

山田　大学では違和感があったのですね．

山下　はい，それでこのまま医者になっていいのか？と迷い，１年間休学もしました．

でも大学３年生の時に，第二内科に米国からHIVと緩和ケアのスペシャリストが来ていたのです．その先生は家庭医で，８ヵ月くらいゼミをしてくださったので，何となく「家庭医」というのが自分の中にありました．その先生も私も当時日本に家庭医療研究会があるのを知らずに「日本には家庭医になる研修はないね」という話をしていて，では小児科医になって，小児癌の患者さんの看取りなども含めて長く寄り添える医者になったらどうか？などと話していました．

毎年，その先生のところに見学に行っていましたが，今になってみると，全米でも有名な家庭医プログラムだったのです．サンフランシスコの北のサンタローザにある何ということのない病院なのですが．

山田　大学ではないのですか？

山下　150床くらいの病院です．15年もあとになって自分がOHSUに行くようになって初めて知ったのですが，そのプログラムは米国で始まった13の最初の家庭医プログラムの１つだったのですね．本当に運がよかったと思っています．

それで大学を卒業して，最初は臨床研修は米国へ行ってみたいと思っていましたが，そのためには米国横須賀海軍病院へ行こうと思い，そこに入りました．

ところが，面白いことに海軍病院にいて，米国へは行きたくないなと思うようになったのです．軍の病院でしたから，結構雑な感じと放漫な感じで．それで何科に進むにしても，臨床の強いところで学びたいと思って，武蔵野赤十字病院へ行きました．

山田　初期研修ですか．

山下　そうです．まだ卒後臨床研修が必修化になる前でしたが．日下隼人先生の下，10人の同期でスーパーローテートをして，５日おきに救急の当直もしました．当時の有名研修病院というと，聖路加国際病院とか亀田総合病院という感じでしたが，武蔵野日赤は特に病院側がというのではなく，のびのびと自由に研修させてもらえて，とても勉強になりました．

でも，やはり専門医のたらい回しのようなことに遭遇するわけですね．呼吸器癌で脳転移している患者さんがいて，脳外科なのか呼吸器科なのかというようなことがあって，ショッキングなこともあったのです．